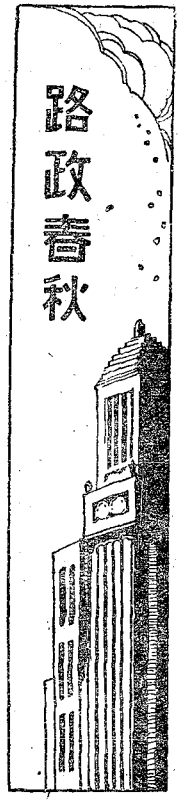

注意

本欄は讀者諸君の利用に提供す。治安と風俗とを害し又は人身攻擊にあらざる限り奇想天外的の奇稿を望む。一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

これは珍らしい林子平の地圖

德川幕府の鎖國を憂ひ當時既にわが海邊を窺つてゐた外敵に對しても航海術を研究し海軍を鞏固にして海外に發展せねばと長崎にわたつて蘭人に就て學び「海國兵談」の著書を刊行して警鐘を鳴らした事が幕府の忌諱に觸れ版木から著書一切を燒かれ投獄されるや「親もなし妻なし子なし版木なし金もなければ死にたくもなし」の一首を詠んで遂に獄舍に病死した寛政三奇人の一仙臺藩士林子平が海國兵談に挿入する地圖として自ら描いた版木下圖が佐渡相川町で發見され臨戰體制下の皇國海の護りに大きな話題を提供してゐる。これは新潟縣鄉土博物館長齊藤秀平氏が佐渡の調査旅行中相川町で發見稀にみる珍品として所藏者同町三浦巖氏に乞うて博物館に出陳すべく携行したもので、天明五年乙巳仙臺林子平作とあり支那全土から北極に至る北邊の地圖で地圖一杯に實にこまゞ〳〵入念に里數から風俗習慣が書き込まれてあり黑龍江から北が露領で西を支那領としてあり、樺太は支那領と地續きの岬で日本領としてゐる、其註に「新井白石の萬國圖には野作とあるが樺太なるべし、この土地の土人は馴鹿犬を使つて生活し靑玉の石を產し魚類夥しく棲息す」とあり宗谷海峽を「此間七里大難所にして船通ぜず」と書いてあつたり北海道が芋蟲みたいな形で千島列島の位置と琉球列島の位置が寔に變な形で全く異つてゐるが本州四國九州から朝鮮滿洲地方は概ね正しく描いてある。これは今から百七十年前子平入牢の七年前四十七歲の時の作、當時日本で唯一の地理學者の描いた東洋地圖としてはまことに珍重するに足るものである、此地圖の欄外に、

明治二十五年六月二十一日宮城縣仙臺市北番町空地に於て百年祭を行ふ但し神祭なり知事伊越祭文を朗讀せりと書いてあり相川町濁川古川千種氏が野飼高野陳逸方に於て得たもので子々孫々に至るまで之を外に持出してはならぬと命じてあつたといふもの皇國の現勢と比べて感また無量といふ地

圖である。

庭内から千三百年前の古墳

駐日滿洲國大使館の庭内から一千三百年前の古墳が發掘されて帝都の話題となつてゐる、こゝ數日の雨で地盤がゆるんだためか九月二十五日朝東京櫻田町の滿洲國大使館舊門右内側の地面約二尺四方が陷沒、大使館員が計つて見ると、深さ約二十尺もあり、由緒ありげに見えるので直に文部省並びに東京市の史蹟調査保存關係機關に連絡、兩機關から係員が出張し大使館員と協力して愼重發掘を行つた結果、深さ約十五尺、南北二十一尺、東西十八尺の大古墳が現れ、時代も約一千三百年前の竪穴式の古墳と鑑定された。千三百年の昔と言へば日本に初めて年號が制定された大化の改新當時で、關東、東北地方には阿倍比羅夫が蝦夷討戌のため遠征を續け、東京地方においても未開の民と官軍の間に幾度か戰が繰返されてゐたものと想像されるが、今回發掘された古墳は純然たる大和民族の、それも相當豪族の竪穴墳墓で、發掘中珍らしい中古の砥石瓦などの出土品があつたが棺桶、人骨等は腐蝕して跡を留めなかつた、古墳の内部は漆喰用の壁土をもつて塗り固めてあり、鍬の痕なども歴然と殘り、東京において發掘された古墳中で最も完全な體形を有し、考古學上貴重な資料なので、大使館では文部省當局と協議の結果、施設を施して保存することゝなつた。

「東洋」を斬つた名刀現る

幕末土佐藩の參政でまた「新おこぜ組」の統領としてはぶりをきかした東洋吉田元吉を斬つた「天文祐定作」がこの程香美郡野市町にある遺族の秘筐を離れて高知公園懷德館に陳列され一般の參觀に供せられることゝなつた。

萬延元年三月三日雪の櫻田門外で大老井伊掃部頭が水戸浪士のため首級をあげられるや勤皇討幕の風雲は澎湃として卷き起り全國の勤皇志士を搖り動かした、この當時土佐の武市半平太の一黨は早くも呼應して起ち文久二年四月八日夜武市半平太の指令によつて那須信吾、安岡嘉助、大石團藏の三人は吉田東洋を山内家の講義を終へほろ醉加減で折柄の濛雨に傘傾けながら帶屋町下一丁目前野久米之助邸前まで歸つた所を待ち受け先づ那須信吾が一刀を浴びせたが文學の主東洋はまた武藝の達人でもある所から兩々相讓らざる所を背後から大石團藏が斬りつけ遂に首級をあげたものである。この大石團藏の佩刀で、銘には天文十一年二月日備前國住長船祐定作と克明にあり、長さ二尺三寸、反六分亂刃である、柄は半卷、鍔は土佐明珍所々に大石の頭文字(を)打出し總ての拵へが當時の土佐勤皇黨の差料に符合してゐて中身は當日刃傷を經て多少の曲身痕跡を存して屠り堂々たる當時の風格を偲ぶに足るものである。